

人④ ただ野球が好きなだけ、ですか

白井 弘さん
大野八区 五十二歳

「子供のころから野球好き。今まで野球好き」と笑う白井弘さんを紹介したい。実は白井さん、本業はおし屋さんだが、バットやボールを握る方も好きで、黒崎野球連盟の理事長なのだ。

「ただの野球好きですよ」とくり返されるけれど、二十年以上も審判員をしたり大会役員をしたり、白井さんがいるから野球ができる、なんていう声を聞いたりすると、ただの野球好きと書いていい

「そのあこがれがいまでも野球へしたからねえ。大洋クラブという野球の草分けともいうべき大正時代にできた野球チームがあるのですが、それがあこがれました」

「そのあこがれとして残っているのか毎日のように審判を務める。好きでも審判としての判定は厳しいよ」と言うものの「人に頼むのがわるくて」と心やさしいのだ。

でも審判としての判定は厳しい。自分に厳しい。「特に中学生の大会は間違いは許されません。その試合にみんな賭けているのだから」



5人の公式審判員を含めて60人の審判員がいることが、黒崎野球連盟の自慢と言う理事長の白井さん。自身も4月から10月までの野球シーズンは審判員としてグラウンドに立つ。少年野球では現役選手で1番か2番「人を生かすバッティング」を心がけている。

「野球は個人プレーよりもみんなの和が大切」。これから野球連盟の目標を「野球をとおした青少年の健全育成」に置いている。

ところで、白井さんのボディーションだが「昔からチャンスを作る一番が二番で、守備はキャッチヤーに決まっている」とのこと。野球好きで世話を好きの白井さんらしい。

新潟日報の紙面では遂に一面トップである。新聞が交通事故を一面トップにもつてくるのは何年ぶりのことだろうか。それだけ、いま交通事故は大きな問題になっている。

来月号は今月号で予定していた「中の口川と信濃川の河川改修計画」を特集したい。取材と資料がないへんなものではあるが…。

【来月号の表紙】

皆さんの情報を待ちています。特に、

マイホームの建て方や**ボランティア活動**や**化的活動をしている人**についていました。

子供のころは物がなく、グローブは厚い布、ボールは牛の毛をまるめて作ったという。「戦後すぐで

なものなら前の晩からわくわくして早く起きるでしょう。同じです

よ」と言うものの「人に頼むのが

わるくて」と心やさしいのだ。

でも審判としての判定は厳しい。

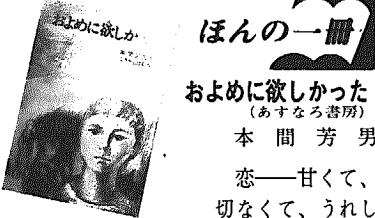
自分に厳しい。「特に中学生の大会は間違いは許されません。その試合にみんな賭けているのだから」

訂正とおわび

8月号の「特集・平和」の記事中8ページ

の風間サキさんのインタビューで誤りがありましたので訂正をおわび致します。間違いは

「子供が四人いた、十歳、十三歳、十六歳、一九歳」で、年齢が生まれた年の誤りでした。つまり、「昭和十年、十三年、十六年、十九年に生まれた子供が四人いた」に訂正します。



【人の動き】		【前年】	
7月末現在(前年比)	[同月比]		
人口	22,721(+26)	[+444]	
男女	11,182(+25)	[+240]	
世帯	11,539(+1)	[+204]	
7月1日～末日	5,971(+37)	[+159]	
出生	21	転入	57
婚姻	1	転出	55
死亡	10		



新潟県

黒崎町

を募集しています。広報のほかに町の記念誌を本年度は編集する予定ですので、皆さんの町内のニュースを今まで以上にお待ちしています。